

第4回厚生文教常任委員会会議記録

開 閉 会 日 時	令和3年6月22日（火曜）		午前10時45分 開会	
	休憩 11:39-40			
			午前11時50分 閉会	
	休憩時間：0時間1分		会議時間：1時間4分	
会議場所	役場3階 委員会室			
出席委員 氏 名	委員長	渡辺洋一郎	委員	正村紀美子
	副委員長	黒田 栄継	委員	堀 切 忠
	委員	常通 直人	委員	橋本 和仁
	委員	西尾 一則		
	委員	柴田 正博	議長	早 苗 豊
説明員	公立芽室病院事務長	西 科 純	同経営企画係長	杉本 康次
	同参事	江崎 健一	同主査	吉田かおり
	同総務係長	佐藤 文彦		
	同医事係長	多田 敬介		
参考人				
欠席委員 氏 名				
事務局職員	事務局長 安田 敦史	総務係主査 上田 瑞紀		

『会議に付した事件と会議結果など』

1 開 会

委員長が開会を告げ、事務局から本日の委員会の日程を説明する。

2 議 件

(1) 調査事項

ア R2公立芽室病院の決算状況について

資料1

- ・委員長：担当課の説明を求める。
- ・総務係長：R1 対比で、新型コロナウイルス対応の影響による増加事項及び会計年度任用職員制度の導入に伴う人件費と経費の内訳見直しによる変更要素を説明。
- ・医事係長：診療科別前年対比を説明。緊急事態宣言及び2度にわたるクラスターの院内発生により入院・外来共に概ね減の説明。
- ・委員長：質疑はないか？
- ・正村委員：1億8千万円の黒字決算は明るい話題。医療事務の直営化等も評価できる。一方、前年対比で医療収入が減となっている。改めて全体の評価は？
- ・事務長：総じていえば、院内でも同様の評価である。（収入減となる要因の）受診控えは官民間わない現状でやむを得ないと考える。コロナに立ち向かうべき意思を強くし、事務はもとより院内全体でその決意が一丸となった成果と捉えている。

- ・正村委員：コロナ患者を受け入れる決意と並行して、高齢者等の診察もある中、他の対策や課題に対しての評価は？クラスターの前後で（院内体制等で）変わったものは？職員の意識は？
- ・事務長：コロナ受入評価は、事実として決算上に反映があった。また、医療の責任分担（医療的な協力体制）について、国・道・町との役割分担が明確になった。このことによって、地域医療構想への影響があったと感じる。院内としては、各部署間の垣根が低くなり協力体制も強固になってきた成果と感じる。コロナ前後の変化は、前述したとおり職員間協力が強固になったことをはじめ、感染対策の意識が強化されたこと、専門職種（ICN）の必要性や活用意義の意識が培われたことが主たるもの。看護師の体制については誤解があるようだが、当初は（看護師がコロナ患者への対応に）躊躇する場面があったが人員・人財等に不足はない。
- ・黒田委員：コロナを通して、様々な困難辛苦を憂慮する。医師・職員があつての医療機関であるが、働く環境として今後の対策は？
- ・事務長：職場環境としてはクラスター発生の時期は心身ともに苦しい時期であった。2回目はさらに（多数の外来診察や電話対応をした医師・看護師・医療技術職にとっては）きつかったと思う。コンサルのアドバイスは、（過酷な状況に直面した後）一定期間後に（心身の不調を）発症するケースが多く、きめ細かく管理・監督職が各職場において、職員の状況を確認・観察することに心がけている。現在、ワクチン接種の業務が現在進行形である。勤務環境（時間・対応事項等）としては決して安定しているものではない。しかしながら、この現状の解釈を、（院内全体として）地域住民へ貢献する崇高な使命であり、達成感につながるものであることをひとり一人が認識できるよう努めていきたい。
- ・委員長：ほかに質疑はないか？
- ・（質疑なし）

イ 公立芽室病院経営形態見直しの経緯について 資料 2-1、2-2

- ・委員長：担当課の説明を求める。
- ・病院事務局参事：①現状、②安定的な経営に向けて、③求められる役割、④経営形態の見直し、⑤コロナ対応の存在意義について説明。
- ・委員長：質疑はないか？
- ・正村委員：従来の地域包括ケア病床を増やしていく方針に変化はあるか？
- ・参事：現在10床。増加していきたい方針に変わりない（当初は10～20。当初計画からの変更はあるかもしれない）。
- ・正村委員：町内他の民間施設（老人施設）にも同じ方針がある。連携・協議等の状況は？
- ・事務長：（民間施設との連携は）「介護医療連携会」という機能で、情報共有・交換を重ねている。他との連携も視野に、（公立芽室病院が）その核となるよう目指していきたい。
- ・経営企画係主査：昨年から月1回、「介護医療連携会」において3者で連携を重ねている。全体の役割、施設ごとの役割等を相互確認するなど、理解を深めるよう努め

ている。

- ・ 正村委員：経営形態の見直しについて、今後の検討スケジュールは？
- ・ 参事：現段階では、詳細は未定である。
- ・ 正村委員：議会との情報共有を改めて要望したい。
- ・ 参事：承知した。
- ・ 委員長：ほかに質疑はないか？
- ・ (質疑なし)

ウ 厚生文教常任委員会所管施設調査について 資料 3

- ・ 委員長：所管調査については、去る6月10日で決定したもののだが、本日は見合わせることにし、改めて日程調整等をしたいが、異議ないか？
- ・ (異議なし)
- ・ 委員長：それでは、別途調整する。

- ・ 委員長：自由討議を諮る（調査事項「ア」及び「イ」）。
- ・ 常通委員：経営形態の見直しについて、4パターンが示されたが、（各パターンの制度根拠や内容等）認識不足の面も否めないことから積極的に調査していくことを意見する。
- ・ 柴田委員：経営形態の見直しは、（議会としては積極的というよりは、）受け身とならざるを得ないカテゴリーと考える。医師の意思も十分尊重すべき要素である。議会としては、経営状況の調査・審査は使命であるので、調査をしていく事項については、委員も共に学ぶ必要もあり、積極的にすべきものと牽制機能との区別をしながら取り組んでいくべきと考える。
- ・ 委員長：ほかに意見はないか？
- ・ (意見なし)
- ・ 委員長：以上で自由討議を終了する。

3 その他

(1) 次回委員会の開催日程について

6月30日（水曜）9時30分から（ミーティング）とする。

(2) その他

- ・ 委員長：6月定例会議の振り返りがあれば提出いただきたい。

委員、議長、事務局からなし

以上をもって、厚生文教常任委員会を終了する。

傍聴者数	一般者	0名	報道関係者	2名	議員	0名	合計	2名
令和3年6月22日								
厚生文教常任委員会委員長 渡辺 洋一郎								